

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第137号 平成30年4月16日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 Tel. 381-1058

（主な内容）

・江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって

「自立と共生」の基本理念のもとに
教育長 月田 健 二

平成30年度江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって

「自立と共生」の基本理念のもとに

江別市教育委員会 教育長 月田 健 二

今年、「北海道命名150年」、「江別村が誕生して140年」の記念すべき年にあたります。道教委は、平成30年度（2018年度）から新教育計画をスタートさせました。

その「北海道教育の基本理念」は、「自立と共生」である。

自立～自然豊かな大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む

共生～ふるさとに誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む

当然ながら、江別市においても「夢に挑戦し、共に支え合う」は、子どもたちの育成、まちづくりの原点である。

「夢に挑戦」は、これまでの時代と比べものにならないくらい重要となる。現在の子どもたちが大人になるであろう2030年頃には、IoTやビッグデータ、人工知能（AI）等をはじめとする技術革新（テクノロジー）が一層進展し、第4次産業革命が起こると言われている。社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想される。

技術革新の進展により、今後10年から20年後の日本の労働人口の相当規模が技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が高いと指摘されている。このような時代だからこそ、ICTを主体的に使いこなす力や、他者と協働し、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値観を創造する力が一層重要になる。これからの教育は、こうした人間の「可能性」を最大化することを目指すものでなければならない。

それには、現在の子どもたちに、未知の職業、未知の産業構造、未知の社会構造等々に挑戦しようとする挑戦意欲・挑戦力が必要となってくる。

「共に支え合う」も極めて重要である。江別市も含め、北海道各地において、児童生徒数の減少に伴い学校が小規模化することによる教育上のデメリットの

顕著化、人口減少による地域コミュニティの衰退、多様化する価値観、家族形態の変容による地域社会等とのつながりや支え合いの希薄化など、学校や地域、家庭の教育力の低下が懸念されている。

あらゆる教育力の低下は、間違いなくその地域社会の衰退を招くことになる。地域に根ざした文化活動も過疎化や高齢化等により、保存や継承が困難になってくると考えられる。

これからは、一人二役・三役での地域づくりが必要となる。まず、地域住民の知識や経験等を子どもたちの学びに生かすことが、ふるさとに根付く子どもたちを育て、地域の振興・創生にもつながっていくことから、学校と家庭、地域が一体となって子どもたちを育む「**地域とともにある学校**」に向けた取り組みを進めていくことが必要である。江別型コミュニティ・スクールを活用してもらいたい。

そして、これらすべてを解決していくためには、「**質の高い教育**」を実践していくしかない。「質の高い教育」の提供に向けた「**大胆な教育課程**」や「**きめ細やかな指導の充実**」、「**子どもたち一人一人の状況に応じた教育の充実**」には、**教職員一人一人の予想しがたい未来社会に向かう「自立と共生**」が必要となってくる。指導者にその意気込みがなく、児童生徒に「**社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する**」ことができるとは思えない。

北海道の新教育計画は、さらに、6つの目標と30の施策項目から成り立っている。石狩教育局からは、今年度、施策項目のどの項目を重点とすべきか示されている。各学校にあっては、重点施策項目の学校内具体化と実践をお願いするところである。



江別市教育研究所は、昭和30年に設立され、北海道教育研究所連盟に加盟しています。児童生徒の行動や意識の状況、それを取り巻く学習や生活環境などを調査し、毎年「調査研究報告書」を発行しています。

また、教職員対象のセミナーを実施し、新しい指導方法や考え方などを発信しています。

今年度も「所報」を随時発行し、江別市の小中学校教育の一層の充実のために情報提供に努めて参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。